



令和3年 6月 1日
有松まちづくりの会

有松まちづくりの会総会（5月19日）

竹田嘉兵衛会長より「これからのまちづくりは、住人にとって素晴らしいまち、日本中世界中から来ていただけるまちを作ること。ネオ・ジャポニズムのまちを絞り核をつくっていききたい」との挨拶がありました。その後、令和3年度の事業計画並びに収支予算・会則改定・役員人事の承認等4議案について審議が行われ、承認されました。



有松まちづくりの会役員会（5月24日）

令和3年度の役員役職・担当が会長から提案され承認されました。

- 会 長：竹田 嘉兵衛
- 副会長：藤枝 静次、高瀬 喜祥
- 理 事：中島 信行（総務・財務担当）
- 理 事：加藤 厚（企画・事業担当）
- 理 事：阿知葉征彦（有松町並み相談会担当）
- 部 長：久野 剛資（総務担当）
- 部 長：鋤柄 通雄（財務担当）
- 部 長：中濱 豊（企画担当）
- 部 長：山田 修生（事業担当、有松町並み相談会担当、有松史料調査保存会担当）
- 部 長：加藤 明美（広報担当）
- 役 員：根尾 文彦（有松史料調査保存会担当）
- 役 員：伊藤総俊、海福 淑子、大島 一浩、梶野 泉、加藤 一成、川口 廣次、鈴木 章二、
武馬 淑恵、長塚 啓、名桐 秋雄、成田 基雄、服部 亨、本田 雅己、六鹿 晴美、
山上 正晃、山田 剛生
- 会計監査：柴田 幸生、久田 耕一郎
- 顧 問：服部 豊
- 参 与：淡河 俊之、梶野 幸男

有松日本遺産実行委員会（4月30日）

竹田会長に続き、名古屋市歴史まちづくり推進室の黒田室長から「コロナウイルス感染拡大中であるが、更に有松を名古屋観光の柱として育てていきたい。有松以外の人や若い人たちとも一緒に盛り上げていきたい」との挨拶をいただきました。

その後、令和2年度の事業報告と令和3年度の実施事業14件についての説明がありました。



歴まち室黒田室長 あいさつ

絞り鯉のぼり 東海道の町並みに展示（4月24日～5月9日）

昨年に続き2度目の鯉活プロジェクト。実行委員会の主催で、子どもの健やかな成長とコロナ禍の逆風に負けないようにとの願いを込めて行われました。川に見立てた東海道に絞り鯉のぼりを泳せる企画です。昨年の15匹にプラスして今年は28匹が元気に泳いでいました。その多くは町家の格子に飾られていましたが、今年は更に絞会館の奥、竹田庄九郎碑・鈴木金藏碑の横にも掲揚されました。

右の写真は、4月27日に有松幼稚園の年長児10名が鯉のぼりを掲げているところ。希望者が多く、くじで参加者10名を決めたとのことでした。終了後もしっかりと挨拶もできていました。

委員長の中濱豊さんは「いろいろな技法の絞りで制作されていますが、中には皆さんが見たことない絞りもありますので是非ご覧ください。また、コロナ禍の中有松に来られない方もチラシのQRコードで見ることができます」と仰っていました。

〈展示場所〉石川邸・有松郵便局・碧海信用金庫有松支店
棚橋邸・舩屋・山与遊歩道・中濱商店・松柏苑
竹田嘉兵衛商店・岡家住宅・安藤来助商店



町家格子での展示風景



竹田庄九郎碑横での掲揚風景

イオンモール有松で有松紹介（5月1日・2日）

多くの人が行き交う1階グリーンコートで、緑区内のガイド4団体がそれぞれの地域（有松・桶狭間・大高・鳴海）の紹介を行いました。展示コーナーには各地域の紹介パンフレットや物産品が置かれ、ステージでは各地域の紹介映像や紙芝居（各30分）が行われていました。

ステージ隣では、「まり木綿」による和紙染め体験(5/1)が行われていました。雪花絞りの技法で和紙を染め、ミニ鯉のぼりを作るのですが、次々と参加者が訪れていました。

有松の紹介を担当したあないびとの会の皆さん10数名は、交代で来客の対応に当たっていました。また、ステージでは紙芝居「庄九郎と仲間たち」を上演。1日の語り部の六鹿晴美さんは「ゆっくりと語ることに心掛けました」と仰っていました。間隔を空けて並べられた15脚ほどの席はすぐに埋まっていました。



ミニ鯉のぼりと和紙染め体験の様子



紙芝居上演の様子

桶狭間古戦場保存会総会（5月7日）

NPO法人桶狭間古戦場保存会の総会が桶狭間公民館で開催されました。理事長挨拶で梶野泉氏は、「令和2年度の行事はコロナ禍でほとんど中止になったが、名古屋市からの業務委託事業は完全に実施できた。古戦場公園の来訪者は、ほぼ前年の通りであった。3年度は我慢の年である。公園来訪者の減少は見られないので、桶狭間観光案内所の誘致など一層の努力をお願いします。」と、仰っていました。

今年度、桶狭間塾を中止し新たに史跡めぐりツアーを開催することになりました。

講座「有松を学ぶ」開講（5月12日）

2019年日本遺産に認定された有松。有松が愛される理由を様々な学びを通して見つけようとの講座。緑生涯学習センターを会場に、定員20名で行われています。参加者の皆さんは有松を訪れたことがあるとのこと。より深く有松を理解したいとの思いが感じられました。

「第1回 江戸時代の有松」は、古文献から有松の歴史を学ぼうという内容。浮世絵や東海道中膝栗毛・天保の村絵図を通して、江戸時代の有松をイメージするところから学習は始まりました。今日に繋がる有松が形作られたのは、18世紀後半。当時の人口は500人前後。絞り業が有松に根を下ろしています。

通行する人々の目を楽しませる名産品の有松絞り。有松絞りが生まれ、広がり、いかに発展してきたか古文書を読み解く。難しいけど絞問屋の実態が伝わってきました。

「第2回 有松を歩く前に」では、次週のまち歩きの見どころを、有松あないびとの会の皆さん4名が語って下さいました。スライドを使って、井桁屋や竹田家住宅など主要な建物だけでなく鍾馗さんや仏足石などまちの魅力も広い視野から紹介。

また、有松の「3つの宝物」としてまち並みだけでなく絞りや山車についても触れられ、参加者の興味をひいていました。かつて戦時中、有松に捕虜収容所が置かれていたという秘話も紹介されていました。有松絞りの誕生を描いた「庄九郎と仲間たち」、当時唯一の町医者棚橋氏と捕虜の軍医の友情を描いた「お灸と指輪」の紙芝居が上演され、まち歩きへの期待を高めてもいたようです。

「第3回 有松を歩く」では、少人数に別れて案内していただき、まち歩きを堪能しているようでした。受講生の方は「こうして案内していただくと、有松のまちの良さがよく分かりますね」と感想を寄せて下さいました。

名鉄「初夏の有松めぐり」（5月22日～7月18日）

4年目となる名鉄の有松キャンペーンが始まりました。これまで山車まつりや晩秋の有松の開催に合わせて、秋に実施されていましたが、今年は気候が良く浴衣購入で来訪が見込める初夏に実施されることになりました。

残念ながら、6月5日(土)6日(日)の有松絞りまつりは今年も中止になってしまいました。感染状況が落ち着きましたら「有松おさんぽきっぷ」等でおこしいただければと思います。

● 有松おさんぽきっぷ利用者限定の特典 紹介

特典1：有松・鳴海絞会館2階展示室入場無料券

特典2：あないびとの会によるまち並みガイド無料券(利用は土日限定)

有松を学ぶ

～歴史・まち並み・文化に触れて～

第1回(5/12) 江戸時代の有松

日本福祉大学教授 高部淑子

第2回(5/19) 有松を歩く前に

有松あないびとの会

第3回(5/26)[現地学習]有松を歩く

有松あないびとの会

第4回(6/2) 有松絞りの歴史

有松まちづくりの会会長 竹田嘉兵衛

第5回(6/16)[実習]有松絞りに挑戦

有松工芸 濱島正継

第6回(6/30)もっと知りたい有松の魅力

桜花学園大学教授 根尾文彦



第1回講師 高部淑子先生



第2回講師 あないびとの会の皆さん
(加藤さん丸山さん伊東さん山本さん)



5 輝くまち そして

あないびとの会の活動も18年を越えます。有松のまちもずいぶん変わりました。電柱地中化・一方通行・302号開通・一里塚復元・岡家の公開そして何よりも日本遺産に認定されたことです。東海道沿いに新しい店も増え賑やかになりました。これからもどんどん変わっていくのでしょうか。近年、しばり体験が大好評のようです。しばり体験をして、ランチして、町並み巡りをして有松で一日過ごす。体験で作ったハンカチなどを手に少しウキウキ気分です。帰路に・・・いつまでも"古き良き有松"を残しながら、一日のんびりと過ごせるところであってほしいものです。



電柱が地中化された西町

そして、私たちの会もコロナウイルス感染拡大前のように、岡家住宅公開の当番や依頼ガイドの案内のみでなく、「近隣の歴史を知ることが必要」なので、感染が落ち着いたらあちこち歩いて学習したいものです。最近ではネットで手軽に検索できますが、「百聞は一見にしかず」現地調査が一番です。(完)

知ってますか？ 駅前広場は絞り博物館

① モニュメント「藍流(あいる)」

有松駅前再開発事業の一環として、駅前広場の整備が平成5年(1993)より行われました。有松絞りをテーマにしたデザインで統一されていました。

モニュメント「藍流」のデザインをしたのは早川嘉英氏で、「文化・伝統と共に有松が発展するように」との願いを込めて伝統の絞り柄をデザインしたとのことです(手蜘蛛絞・縫絞・嵐絞)。全体は、絞りの技法である布を絞りひねりあげた形状になっています。有松の歴史を礎としながら未来に向かってまっすぐに伸び、発展していくデザインとなっており、下の方から「過去・現在・未来」をイメージしているとのことです。

なお、このモニュメントの名称「藍流」は公募で決められました。



催事・行事の予定

- 6月05日(土) 10:00 13:30 早川嘉英の藍染ワークショップ 棚橋邸・蔵工房
(6月・7月毎週土曜日開催、ただし6月19日(土)は休み)
- 6月13日(日) 15:00 町家ライブ 高橋誠ヨーロッパトリオ 棚橋邸
- 6月21日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 6月27日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 6月28日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン



発行者:竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者:加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

第1回 **江戸時代の有松①** 日本福祉大学知多半島総合研究所 高部淑子先生

大変興味深い内容でしたので、紙面で簡単に紹介させていただきます。

講演に先立ち、「20数年前ふらっと寄った有松で町並みガイドされていた成田治さん（有松あないびとの会初代会長）に出会い、その後もいろいろ教えていただいた」と、高部先生は有松との出会いをお話しになっていました。

1 有松の風景

○ 描かれた有松

有松はいろいろ描かれているが、18世紀のものは少ない。①は猿猴庵が描いた。本の完成は寛政7年(1795)。天明6年(1786)に尾張藩士として江戸を往復した時に目にした光景で、竹田庄九郎家である。建物の庇は瓦であるが、屋根は藁葺きのようだ。中では絞りを商っている。品物が見えるところにある店は、東海道の他にも江戸にもほとんどない。そのため、非常に目立った。

19世紀になると同店は②になる。図会前編は天保15年(1845)刊行、取材は1800年頃からされた。総瓦葺で、卯建はないが塗籠造り・海鼠壁・虫籠窓に変わっている。奥に大きな屋敷があるのが分かる。描いたのは藩士の小田切春江で、正確に描かれている。

他に、東竹・舂屋の店頭風景や括り作業を描いた浮世絵も紹介された。

○ 「東海道中膝栗毛」に登場する有松

有松は四編の下に登場する(刊行は文化2年(1805))。その箇所を丁寧に読み進められた。色鮮やかな絞りを吊し商う東海道沿いの家々。両側の店から声がかかり、弥次喜多は店に入る。店の亭主は将棋を指しながら弥次喜多の相手をしている。値段の交渉が始まる。安く買いたい弥次喜多、懐具合を推測する亭主。値段は符丁で示されている。1尺3分5厘。結局、手拭いの長さを買って店を出る。このような内容が紹介された。

④は作家 十返舎一九の肖像。

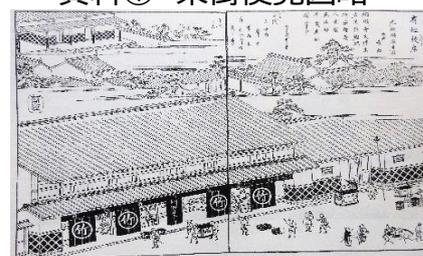
○ 有松村の村絵図

天保12年(1841)のもの。有松村がどのようなところなのかを理解するために、村絵図を詳しく説明された。

- ・ 村の北寄りを東西に通るのが東海道。道幅は通常4間(約7m)。南側へ伸びる道は桶狭間とつながる。
 - ・ 鎌研橋(西端)と筋違橋(東端)に囲まれている。
 - ・ 東海道沿いに町並みが形成されている。
 - ・ 中央部は「御除地」高札場には切支丹高札のみ。
 - ・ 耕地は32石余 村の南側は定納山で雑木林。
 - ・ 西端に祇園寺 門前東鳥居を経て天満社に至る。
- 人口に比べて有松村は耕地不足。桶狭間村は十分。



資料① 東街便覧図略



資料② 尾張名所図会



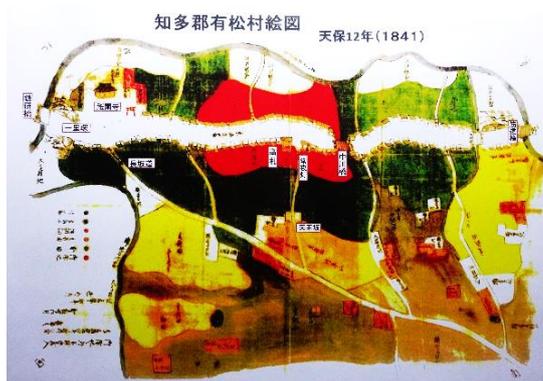
資料③ 弥次さん(右)喜多さん

資料④

十返舎一九



資料⑤ 村絵図



7 浮世絵 展示会場:竹田家住宅

竹田耕三氏は、絞りの絵柄を研究するため絞りが描かれている浮世絵の収集をしていました。展示されていた作品のいくつかを紹介します。

① 鳴海 蜘蛛絞りの図 北斎画

括りをしている風景が描かれている。「画狂人北斎画」の落款から葛飾北斎(1760~1849)のものであることがわかる。錦絵なので綺麗に描かれているが、実際はこんな優雅なはずはない。括り作業の様子がよく描かれている。後ろの人が持っているのは完成品。北斎の東海道シリーズは人物や風俗が主体で、景観描写の広重とは傾向が異なるようです。



② 東海道五十三次之内 鳴海之図 国貞画

背景は広重保永堂版図(左下)を用いている。ご存じの方も多いのでは。歌川広重(1797~1858)は浮世絵の歴史の中で、北斎と共に風景画を完成した方。多くの東海道シリーズを世に出した。

歌川派の活躍は目を見張るものがあり、国貞もその一門。女性がかぶっている手拭いと着物の生地は有松絞り。三浦絞りと巻き上げ絞りの衣装らしい。



国貞(1786~1864)

③ 歌舞伎俳優”中村金五郎”

国貞(3代豊国)画

歌舞伎役者の半身を鮮やかに描き出している。着ている浴衣は三浦絞り、手拭いは豆絞り。江戸時代の豆絞りがどのように製造されてはいたのか分からないとか。

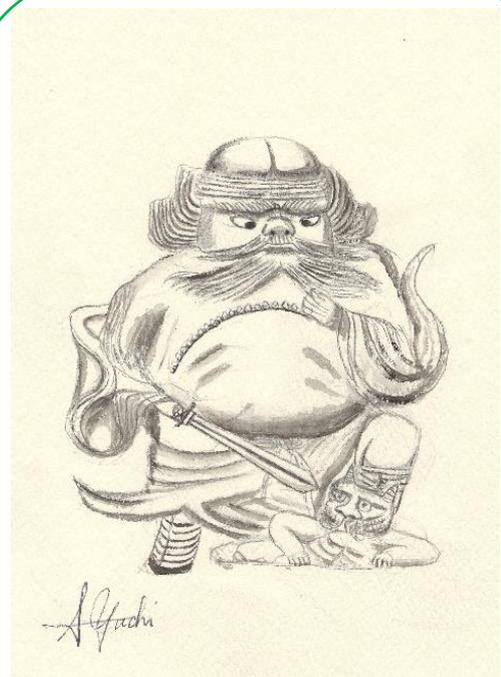


④ 東海道五十三対 鳴海 豊国画

女性が松竹梅の図柄の入った布を絞っている様子が描かれている。

女性の右奥に掛けてある手拭いも、布地を糸で括り藍などで染めて作られている。

豊国(1769~1835)



鍾馗さん

投稿 有松スケッチ 湯地昭夫氏

